

平成20年度 国立赤城青少年交流の家企画事業
「青少年自立支援者のための研究交流フォーラム」
～体験から学び主体的に人生を生きることをめざす支援～

< 実 施 報 告 書 >

国立赤城青少年交流の家

期 日 ・ 場 所 : 平成20年2月13日(金)～平成20年2月15日(日)
独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立赤城青少年交流の家
〒371-0101 群馬県勢多郡富士見村大字赤城山27

事 業 名 : 青少年自立支援者のための研究交流フォーラム
～体験から学び主体的に人生を生きることをめざす支援～

趣 旨 : 生活体験・自然体験等とおして、発達障害(児)者や社会不適応者、一般の青少年の自立に取り組んでいる支援者及び自立支援に関心を有する人々を対象に開催する。参加者の事例発表や先進的な事例紹介及び協議、支援者としてのスキルアップ研修、課題解決に結びつく情報の提供・交換等により、自立支援者の資質向上と支援方法のスキルアップを図るとともに、参加者間での有機的な連携を構築し、連携支援活動の充実を目指す。
また、参加者個々の実践事例や事業後の連携した取組事例をまとめた「実践事例集」を作成し、広く一般に情報提供を図る。

事 業 の 特 色 : ○先進的な手法を用いて青少年の自立支援に従事している自立支援者と本所の職員との協働で立案、企画、運営等を行う。
○オープニングセッション、分科会1及び2、活動発表、ナイトセッション、全体会(シンポジウム)、ふりかえり・まとめ等の構成で、参加した自立支援者の資質向上を図るとともに、成果をすぐに現場の支援に還元できる内容とする。
○プログラムの中に、参加者の自主的な活動の場や体験活動の場を設定し、本事業への参加者の主体的な参加を促すようにする。

募 集 人 員 : 青少年の自立支援者及び自立支援に関心のある社会人・学生・高校生 100名

参 加 者 : 124名

参 加 者 地 域 : 岩手県 : 1名、宮城県 : 1名、山形県 : 4名、福島県 : 1名、茨城県 : 5名、
栃木県 : 9名、群馬県 : 59名、埼玉県 : 15名、千葉県 : 3名、東京都 : 5名、
神奈川県 : 1名、新潟県 : 12名、富山県 : 1名、福井県 : 1名、長野県 : 1名、
岐阜県 : 1名、大阪府 : 1名、奈良県 : 3名

企画のポイント : 様々な要因で社会や人と上手く関わることができない青少年のために、教育の分野だけではなく、福祉、臨床心理、精神医療などの関係者が連携し研究・協議をすることで新しい支援の方法を模索し、各分野が連携しての総合的な支援活動へ一歩踏み込むきっかけづくりがポイントである。「実践事例集」を新たに作成することにより、当所を中心とした青少年自立支援の全国ネットワーク形成の基礎固めを行う。

広報のポイント : 当所の企画事業に参加したことのある者、学校、大学、専門学校、社会教育施設へのダイレクトメールの発送を行った。分科会に関連のある各種団体への電子メールによる広報も行い、許可をもらった団体のホームページ上に開催要項等を掲載してもらったり、当所ホームページへのリンクを貼ってもらったりした。5名の実行委員、16名の講師、5名の事業運営補助者からの広報もお願いした。報道機関による、文字・音声媒体の広報も行った。

プログラム展開 : < 2月13日(金) >

- 17:30~18:30 受付
18:30~19:00 開講式
19:00~20:30 オープニングセッション
佐々木豊志氏・西村仁志氏
「岩手・宮城内陸地震の被災体験から
学んだ自立とは ～主体的に生きるこ
との大切さ～」
20:30~21:00 オリエンテーション
21:00~22:30 休憩・入浴 (23:00 就寝)

< 2月15日(日) >

- 9:00~10:30 全体会 (シンポジウム)
11:00~12:00 ふりかえり・まとめ
12:00~12:30 閉講式
12:30~13:30 昼食

< 2月14日(土) >

- 9:15~12:15 分科会 I
①一般の青少年の育成・発達支援「自立心を伸ばす
体験学習・環境づくり ～モンテッソーリ教育
法から～」: 三谷嘉明氏, 穴澤剛行氏
②プロジェクトアドベンチャーについて「人と人
の信頼関係づくりに着目して」: 林壽夫氏
③反社会的問題行動の理解と支援 : 馬場明子氏,
佐藤順子氏
④知的・発達障害(児)者への支援「TEACCH
プログラムを参考に支援を考える」: 小林信篤
氏, 山田智子氏
⑤自然体験施設・社会教育施設における支援「自
然体験施設・社会教育施設における取組と課
題」 : 西田真哉氏, 佐々木豊志氏
12:30~14:00 昼食とポスターセッション
14:00~17:00 分科会 II
①学校教育における取組と臨床心理学の視点から
の検証「中高一貫の全寮制教育の取組から」
: 宮川治樹氏, 佐々木克典氏
②不登校・ひきこもり・ニートの理解と支援 :
鈴木基司氏, 木村元思氏
③食育について「今なぜ食育か ～豊かな人間性
を育む食育を考える～」: 黛徳男氏
④知的・発達障害(児)者への総合的な支援活動
「ネットワークづくりに着目して」: 安田淑美
氏, 山田智子氏
⑤自然体験活動の効果測定・評価について「自然
体験活動の効果測定・評価」: 山下雅彦氏, 北
川健司氏
17:30~18:30 活動発表
18:30~20:30 ナイトセッション
20:30~22:30 休憩・入浴 (23:00 就寝)

成 果 : ・平素, 青少年の自立支援に取り組んでいる参加者の分野や支援方法が多様であったため, 各プログラムの中で行われた意見・情報交換をとおして, 自身の支援方法を見直し, 課題を明らかにすることにつながった。

・参加者自ら記入した自己 PR カードをひとつにまとめ, 配布したことにより, 参加者同士の交流やネットワークづくりが活発化した。

・参加者より当所宛てに事前に送付された, 自立支援の実践事例を冊子にして参加者全員に配布した。事後の送付も可であることを伝え, 当所を中心にした実践事例の情報発信の基礎ができた。

・幅広く多くの分科会を設定したことによって, 様々な現場にある, 発達障害や心理的な課題, 反社会的問題行動等へのよりよい支援が「連携」から見いだすことができるとの感想が多く聞かれた。

今後の課題 : ・実行委員会の組織・構成員の見直しを図ること。

・「実践事例集」の量的・質的向上を図ること。

・当所における自然体験活動や生活体験活動を通しての, 自立支援プログラムの基礎案および試行プログラム案の作成。

・今回できたネットワークをさらに広げるための方策の検討。



分科会の様子



参加者による活動発表



参加者同士のふりかえり